

2021年7月4日～7月10日 各家庭でのディポーション用テキスト

[信仰]

主よ 信仰を与えてください  
日々心を静かにして時を過ごし  
小さな仕事にも心を込め  
すべてを御手にゆだね  
あなたの道を歩みえますように

主よ 信仰を与えてください  
知ることができなくても ただ信じ  
心を静めて すべてに主を認め  
幼子のような信仰により  
行くべき道を行かせてください

主よ 信仰を与えてください  
すべてを御手におゆだねし  
未来のすべてを主の賜物と信じ  
未来のベールを切り開かなくても  
ご愛を信じ歩ませてください。

ジョン・オクセナム  
Bees in Amber より

## ■逸脱についての訓練 (1/4)

ところが、しもべが何やかやしているうちに、その者はいなくなってしまう  
た。(1列王 20:40)

自分に課せられる任務が、困難で、たいくつで、危険を伴うことさえあるかもしれ  
ない。しかし、それを成し遂げたときの喜びは格別である。任務を与えられてか  
ら、「よくやった。良い忠実なしもべだ」と言われるまでの間には、多くの危険が  
待ち伏せている。私たちが明確に認め、拒否しなければならない危険のうち、無視  
できないのは、逸脱の危険である。兎と亀が競走した話は、だれでも知っている。

私たちは、勝ったのろまの亀ほど自分がしんぼう強くないことを認めながらも、負けた寝ぼうの兎ほど愚かであることを認めない。しかし、任務を遂行するという坦々とした道を歩くとき、ともすると横道にそれるという危険は、いつも付きまわっている。どんなときにも、自分の力や、ゴールに向かっての前進を過信してはならない。

任務遂行の道を離れて横道に入り込んでしまう場合、それが全く私たちの側の不注意によることがある。アハブ王にたとえを語った預言者のことばは、人間性を実によく描き出している。このときアハブ王には一つの責任が与えられていたのに、王はその責任を果たそうとはしなかった。預言者は言った。「しもべが戦場に出て行くと、ちょうどそこに、ある人がひとりの者を連れてやって来て、こう言いました。『この者を見張れ。もし、この者を逃がしでもしたら、この者のいのちの代わりにあなたのいのちを取るか、または、銀一タラントを払わせるぞ。』ところが、しもべが何やかやしているうちに、その者はいなくなっていました」(1列王 23:39、40)。王は軍隊の規律をよく知っていた。自分に与えられた使命をよく理解していた。不注意がどんな結果を招くことになるかを十分に承知していた。それなのに、王は不注意であった。自分の行動に不注意であり、義務に対して無責任であったため、自分自身と自分の国を危険にさらしていたのである。